

■ 今年の東京は、例年になく雪が多く寒い冬に感じていたのに、3月に入った途端あっという間に春が来て街中のあちこちで満開の桜から華吹雪が舞っていました。みなさんそれぞれ、心新たに新年度を迎えていることと思います。今年度も研修会等の企画に参加をして切磋琢磨していきましょう。

目次

- I. 2013年度「東京支部総会」および「第1回資格更新研修会」「ネットワーク研修会」のご案内
 II. 第8回全国大会の報告
 III. 2012年度 研修会報告
 IV. 事務局より
- *****

I. 2013年度「東京支部総会」「第1回資格更新研修会」「ネットワーク研修会」のご案内

下記の要領にて、2013年度「東京支部総会」「第1回資格更新研修会」「ネットワーク研修会」を開催いたします。多数のご参加をお待ちしております。

<日時> 2013年5月26日(日) (時間厳守。遅刻者にはポイントは発行されません)

- | | |
|-------------|--------------------|
| 9:30~12:30 | 東京支部主催 第1回資格更新研修会 |
| 12:30~13:00 | 2012年度 東京支部総会 |
| 14:00~15:30 | ネットワーク研修会(3部門同時開催) |

<場所> 日本大学文理学部 百周年記念館 国際会議場

最寄り駅 京王線 下高井戸駅 または 桜上水駅 徒歩8分
 (詳しいアクセス方法は<http://www.chs.nihon-u.ac.jp/access/>)



<プログラム>

1. 第1回資格更新研修会 9:30~12:30 (受付:9:00~)

- ・参加費: 東京支部会員無料 (他支部会員 1000 円)
- ・ポイント: A区分研修 1ポイント
- ・テーマ: 「いじめ・不登校の経験者が子どもたちを支える」
~多様化するいじめへの対応とこれからの支援の在り方~
- ・講師: 宮川正文氏 (掲示板ぱれっと管理人 元富山大学講師)
戸田有一氏 (大阪教育大学 教授)
- コーディネーター: 東敦子 (のぞみ発達クリニック)

- ・要旨: 中学時代のいじめをきっかけに不登校となり、施設入所や浮浪生活などを経験した宮川正文氏はいじめや不登校に悩む若者の居場所づくりを通して、教育現場における不登校児者への不利益を訴え続けています。いじめ研究の第一人者である戸田有一先生からは、いじめに関する国内外の最新情報を紹介していただきながら、これからの支援の在り方を考えていきます。

2. 東京支部総会 12:30~13:00

東京支部の活動報告・活動計画・予算など、会員の皆様には大切なお知らせをお伝えする場ですのでぜひご出席ください。参加者の数が定数に満たないと総会不成立となり、再招集することになりますので、参加できる、できないに関わらず必ず、東京支部のホームページに出欠登録をお願いします。欠席の方には「委任状」をいただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

東京支部ホームページ <http://www.jocdp-tokyo.net>

ホームページから参加登録ができない場合は、メールにて

<東京支部事務局 jimu@jocdp-tokyo.net> までご連絡ください。

3. ネットワーク研修会 14:00~15:30 (受付:13:30~)

- ・参加費: 東京支部会員無料 (他支部会員 1000 円)
- ・ポイント: A区分研修 0.5ポイント

東京支部では会員相互の情報交換と主体的な活動を促すために、3つのネットワーク活動を展開しています。

A 発達臨床研究ネットワーク、B 子育て・発達支援ネットワーク、C 特別支援教育ネットワークの3種よりいずれかを選んでご参加ください。メンバー同士の交流を目的とした懇談会を行い、今年度のネットワークの研修内容について討議します。途中での入室・退室はご遠慮ください。

研修会参加後に、「ネットワーク・メンバー登録」をしていただきます。複数のネットワークに所属することも可能ですが、ネットワーク・メンバーは、今後の研修会の企画と運営に主体的にかかわっていただきたいと思います。2回目以降のネットワーク研修会は日程を重ならないように企画し、連絡はメールや東京支部ホームページでお知らせします。

A 発達臨床研究ネットワーク

<対象> 研究者や実践研究を目指す臨床家 (世話人: 東敦子・本郷美奈子)

発達臨床研究に携わる研究者と臨床家との交流を図り、臨床発達心理学研究の質的向上をめざす。研究者側からは、基礎研究を含めた最新の研究知見から、困難からの回復力などの発達論的解明や、神経心理学的解明、あるいは適応支援の新たな方法論の開拓、背景にある社会-環境的側面の解明など、広い範囲の発達臨床の課題を取りあげ、実践者との交流によってエビデンスを積み上げていく。また、臨床家側からは、現場での実践知を研究の俎上にあげていくための話題提供を行っていく。学会発表や論文執筆へのマイルストーンとして発表の場を活用してほしい。参加者は東京支部に限ることなく受入れ、研究を行なっている立場からの参加を原則とするが、研究への関心のある人びとの参加も受入

れることとする。年2回の開催を検討している。

今回は、児童養護施設の施設心理士である藤岡孝雄氏(東京都石神井学園)に話題提供いただき、児童養護施設に入所している発達障害のある児童の支援事例について、関係機関との連携の在り方に焦点を当て、多職種間の効果的な連携について、参加者の皆様と一緒に考えていきたいと思う。

B 子育て発達支援ネットワーク

<対象> 保育園・幼稚園巡回、健診、療育に携わる人

(世話人:河島恵美子・坪井寿子・小堀あゆみ・河合真紀子・吉田由紀子)

子育て発達支援 NW では、乳幼児期の支援に関わる会員同士の情報交換や意見交換など、学び合いの場として活動を行っている。参加者の所属は、乳幼児期の発達支援機関、保育園や幼稚園への巡回相談、保健センターの乳幼児健康診査、児童相談所、子ども家庭支援センターなどさまざまであり、乳幼児期の子育て・発達支援領域において、より質の高い支援を提供していくことをめざす。地域の関係機関のネットワークを密にしていくこと、他の機関の新しい取り組みや最新の情報を得ること、などを通して、臨床発達心理士ならではの「子育て支援マップ情報(仮)」の作成も検討している。

今回は、高橋幸子氏(筑波大学附属大塚特別支援学校)より、子育て・発達支援のリソースの1つとして「特別支援学校における学齢前の支援」というテーマで話題提供いただき、就学前のお子さんの支援についてのディスカッションや「子育て支援マップ情報(仮)」につながる情報交換会などを予定している。

C 特別支援教育ネットワーク

<対象> 学校現場で特別支援教育に携わる人 (世話人:田中雅子・菅原真弓・正田康恵・大隈幸子・前田真澄)

特別支援教育にかかわる会員同士の情報交換とネットワークづくりをめざしている。特別支援教育コーディネーターとして、コンサルテーションとして、学校にかかわる中で、「授業づくり、学級経営にどのように取り組むか」「校内支援、地域支援にどのように取り組むか」など、日々の取り組みについて参加者同士の情報交換をおこなっている。

お互いの実践を報告し合いながら、研修の場、参加者の交流の場にしたいと考えている。特別支援教育コーディネーターをしている教員はもちろん、今後コーディネーター的役割を担っていく教員、巡回相談に携わっている心理職の方の参加を歓迎する。

今回は、発達障害当事者として講演や執筆活動に取り組まれている片岡 聡 氏(NPO 法人「東京都自閉症協会」役員)を講師にお迎えして、ご自身の経験をもとに発達障害者が抱える困難および周囲や社会の理解と支援のあり方について話していただく。

<受講条件> 下記2項目を満たしていることが必要です。

- ・日本臨床発達心理士有資格者であること
- ・今年度分までの会費(全国士会・支部会費のいずれも)を納めていること

他支部の方の参加もお受けしますが、定員を超える場合は東京支部会員を優先します。

<申し込み方法>

- ・東京支部ホームページよりエントリーしてください。
- ・メールでのお問合せは、<東京支部事務局 jimu@jocdp-tokyo.net>まで。

毎回、当日参加の方が多く、資料不足などのご迷惑をおかけしております。

そのため、**事前申し込み** とさせていただきます。

(席に空きがある場合のみ、先着順に当日参加をお受け致します)

研修会参加申込締切 : 5月12日 <http://www.jocdp-tokyo.net>

<諸注意> 必ずお読みください。

- ・IDカード、資格更新研修会参加記録ノート(以下、記録ノート)を必ずお持ち下さい。
お忘れの場合、ポイントは発行できません。
- ・会費納入の確認として、振替払込受領書を記録ノートの後ろに添付していただくと助かります。
- ・10分以上の遅刻者・早退者には、ポイントが交付されません。午後の受付にも遅れないようにお願いします。
- ・記録ノート貼り付け用紙は、会場でお渡しします。事前にご記入いただく必要はございません。

Ⅱ. 第8回全国大会の報告

1) 全国大会をふりかえって

士会発足10年目となる今年、日本臨床発達心理士会第8回全国大会を、2012年9月15日(土)～16日(日)、東京ビックサイトにて開催し、無事終了いたしました。参加者は、事前予約者474名、当日参加者511名(非会員51名)、合計1036名で、初めて1000人を越える大会となりました。

全国大会準備委員会は、東京支部(大会長:竹谷志保子、事務局長:東敦子)が担当しました。メインテーマを、「『主体』を支え・つなぐ～インクルーシブ社会の実現にむけて 10年目の挑戦～」とし、準備委員会からは基調シンポジウム『主体』としての権利と支援の行方」、企画シンポジウム1「自我の芽生えを育むアセスメントと支援～家族が将来に希望を持てる地域作り～」、企画シンポジウム2「生きにくさを抱えた生徒の社会的自立に向けた支援～思春期・青年期の自己理解に視点をあてて～」、公開シンポジウム「主体とは何か」の4つのシンポジウムを通して、インクルーシブ社会の構築に向けて「共に在る」、「共に育つ」、「共に学ぶ」、「共に生きる」ための臨床発達心理士としての役割を、会員の皆様と一緒に考えました。

幹事長報告に十分な時間を確保できなかったことが大きな反省の一つですが、士会企画セミナー8本、支部企画セミナー1本、会員企画セミナー3本、実践研究発表26本と、士会、各支部、会員の皆様の積極的な参加とご協力をいただき、充実した二日間になったと思います。心より感謝申し上げます。(大会長 竹谷志保子)

2) 各セッション報告

・基調シンポジウム<共に在る>

大会準備委員会企画として取り組んだ基調シンポジウムは、『主体』としての権利と支援の行方をテーマに、司会本郷一夫先生(東北大学、本土会資格認定機構理事長)の下で、制度・教育・福祉の分野で中心にご活躍しておられる3人の先生方をお招きして、日本の将来を見据えた「共に在る」ためのシステムについてとそこにおける臨床発達心理士の役割をお話し頂きました。

初めに、長瀬修先生(立命館大学)から“障害者の権利条約に見る「主体」としての権利”と題し、国連の1971年の精神遅滞者(知的障害者)権利宣言から35年後の2006年「障害者の権利条約」への歴史的転換の意義があり、この権利条約の中では、障害者自身の声を反映した社会モデル、障害者の法的能力の承認、障害者本人主体の支援付き意思決定などが謳われ、権利を制限していた視点から権利を認める視点へパラダイムの転換であるとお話がありました。

次に、宮崎英憲先生(東洋大学)より“「主体」の権利実現に向けた教育制度の改革”と題して、2010年文部科学省中央教育審議会に設置された「特別支援教育の推進に関する特別委員会」で報告より、権利条約の理念を踏まえた「インクルーシブ教育システムの構築」について、「共生社会」の形成に向けた取り組み、障害のある者が教育制度一般から排除されないための個人に必要な「合理的配慮」及びその基礎になる環境整備が必要であること、又就学相談・就学先決定の在り方等の検討課題についてお話がありました。

最後に佐藤久夫先生(日本社会事業大学)より“「主体」の権利実現に向けた福祉制度の改革”と題して、2010年1月より2012年3月に渡って開催された「障害者制度改革推進会議」の総合福祉部会で検討を行ってきた障害者総合福祉法の制定に向けての6つの骨格提言60項目の検討事項を挙げてきた骨格提言を行ったこと、結果的に総合福祉法は障害者総合支援法として2012年制定となったが骨格提言の繁栄はわずかになっており政府が掲げている3年後の検討などを含めて骨格提言を実現していく第一歩として受け止めであるとお話でした。

国際連合の下で出されてきた障害者の権利宣言や条約が、日本を含め国際社会における障害者への考え方を牽引してきており、日本においても2011年障害者基本法の抜本改正、2012年自立支援法の改正となる総合支援法の制定、2013年障害者差別禁止法の制定予定、そしてインクルーシブ教育システムの構築を目指す特別支援教育への取り組みと、大きなうねりの中にあることをしっかり再認識させられました。大きな変革を行おうとしている中で、障害を抱えたご本人の方々やご家族を支えるべく「共に在る」支援者としての臨床発達心理士の役割は非常に大きいものと確信し実が引き締まる思いでした。(田村満子)

・大会委員会企画シンポジウム1<共に育つ>

シンポジウム1は、発達初期の子どもたちと家族の主体を支えるということをテーマとした。話題提供者の長崎純心大学附属純心幼稚園の岡本仁美さんからは、幼稚園という集団において子どもの自発性を支え育む支援について、神奈川大学の黒澤礼子さんからは、発達初期の子どもと保護者を関係者・関係機関で連携しながら支えていくことについて、東京都立多摩桜の丘学園の坂口しおりさんからは、重度重複障害児と言われる子どもたちが外界への自発的な関わりを獲得していく過程の支援について、それぞれ事例を挙げながらの話題提供がなされた。コメンテーターの東京女子大学、前川あさ美さんからは、障害から虐待まで私たちが現在向き合っている問題を広く取り上げつつ、「主体とは何か」という根源的な問いの投げかけがあった。

支援を目指すとき、否応なく自らの生き様と課題が突きつけられること、専門家を目指すとは、他者に対して常に開きながら、自分自身を何度も崩しては積み直す過程を歩むことだということを再認識させてくれたシンポジウムであったと思う。(市川奈緒子)

・大会委員会企画シンポジウム2<共に学ぶ>

特別支援教育ネットワークでは、「生きにくさを抱えた生徒の社会的自立に向けた支援～思春期・青年期の自己理解に視点をあてて～」と言うテーマでシンポジウムを企画しました。

東京支部では、平成16年から東京都教育委員会より依頼を受けて、東京都の特別支援教育への協力・協働を行っています。現在も、都内の区立小・中学校、都立高校への巡回相談、都立特別支援学校の外部専門家業務を続けています。

大会当日は、今回のテーマである「主体」の自己理解に向けての課題について、行政の立場(市川裕二氏)、特別支援学校の立場(山内俊久氏)、高等学校への巡回相談の立場(月本由紀子氏)から話題提供を受けました。司会の山中ともえ氏を中心に協議を深め、最後に講師の梅永雄二先生(宇都宮大学)からご講演をいただきました。

梅永先生は、まず成人期に達した発達障害者の社会参加、特に就労という分野における課題の精査と最新の制度について説明していただき、日常生活におけるライフスキルの定着に付いて強調されました。また、発達障害の生徒に対しては、社会性の面で発達に遅れがあると言うことを常に念頭に置いて向き合い、大人の現実社会を踏まえた目標設定をしていくことの重要性を教えてくださいました。(菅原真弓)

・公開シンポジウム<共に生きる>

準備会企画シンポジウムの最後は、「主体とは何か？」というテーマで締めくくられました。奈良女子大学名誉教授の浜田寿美男先生からは「今日の「発達」状況からみた発達支援の限界と可能性」、こころとそだちのクリニックむすびめの田中康雄先生からは「主体による環境調整」というテーマでお話しをいただき、首都大学東京の須田治先生の司会によってそれぞれの立場から「主体」の捉え方について討論がなされました。主体とは他者との関係の中で生まれるのだという浜田先生のおことばや、人との出会いの中でともに過ごすことそのものから他者との関係性を学ぶのだという田中先生のお話から、相手の思いを想像しながらも、どこかで想像しきれない、重なり合えない難しさがあるのだという「相互的とんちんかん(場内は爆笑!）」をともに受け入れていくことについて、討議が盛り上がりました(東敦子)。

・実践研究発表

実践研究発表は9月15日(土)13:30~15:00および9月16日(日)11:15~12:45と2日にわたって行われました。A群からI群まで「幼児期の成長を支える」「よりよい親子関係を育むために」「自閉症スペクトラム障害への支援」「多様な支援プログラム」「思春期を支える」「保育の充実を支える」「家族を支える」「特性に配慮した支援」「家庭・他職種との連携」という

9つの群で全26の発表がありました。いずれの群もコメンテーターや会場と活発な質疑応答がなされました。臨床発達心理士会にふさわしい、幅広い年齢層・障害・問題を対象とした多彩な支援のあり方についての実践が報告されました。会場の都合で一部入場を制限せざるを得ない状況になったことは残念でした。(原恵子)

・会員企画(実践B-1～B-3)

会員企画による実践セミナーBは次の3企画が行われました。

「静岡発！地域支援システム構築のために(企画:藁科知行氏)」では、①健診・早期支援のとりくみと市域の支援体制づくり、②療育機関を中心とした地域の体制づくり、③静岡県内の特別支援教育始動の経過と今後の課題、④リソースルームの支援を創造する一発達障害通級指導教室のとりくみ、の話題提供がなされました。

「緘黙支援の現状と課題(企画:高木潤野氏)」では、1)緘黙とは、2)緘黙の抱えている問題、3)緘黙の支援・治療方法についての講演が行われ、最後に4)今後の課題として、緘黙の支援における学校の役割の大きさや外部専門家に期待される役割などについての提案がなされました。

「機能の高いASDのある人へのソーシャルストリーズとコミック会話の実践的応用(企画:服巻智子氏)」では、①ソーシャルストリーズに関するガイドライン、②子どもに活用した事例報告、③成人の方に活用した事例報告の話題提供の後、コミック会話による実践事例報告、参加者による実習がなされました。

3企画とも臨床発達心理士にとって重要な内容を含んでおり、会場には溢れるほどの会員が集まりました。

Ⅲ. 2012年度 研修会報告

1. 小・中・高等学校巡回相談員・特別支援学校外部専門家養成研修

- ・日時: 2012年10月9日(日) 11:00～12:30
- ・会場: 東京しごとセンター 講堂
- ・テーマ: 「巡回相談・外部専門家の実際」
- ・講師: 松村裕美 月本由紀子、森下由規子、竹谷志保子、東敦子、田中秀雄
- ・参加者数: 33名
- ・研修要旨: 現在、巡回指導及び外部専門家として勤務している会員からの説明の後、グループに分かれてロールプレイを実施した。担任、コーディネーター、同僚教員、保護者、本人など、さまざまな立場を踏まえて、事例の問題を分析しながら、話を進めていく方法について体験しながら学んだ。

2. 東京支部 第2回資格更新研修会報告

- ・日時: 2012年12月9日(日) 13:30～16:30
- ・会場: 東京しごとセンター 講堂
- ・テーマ: 「保護者の障害受容と支援のありかた」
- ・講師: 中田洋二郎氏(立正大学 心理学部 教授)
- ・司会: 竹谷志保子氏
- ・参加者数: 107名(支部会員103名、他支部会員4名)
- ・研修要旨: 前半は保護者に対する専門家の見方の変遷、「段階的モデル」「慢性的悲哀」「障害認識の螺旋形モデル」等保護者の障害受容の心の揺れについて、障害告知の要件や工夫点・事前準備、家族支援のあり方等の講義があり、後半は保育所での具体的な事例をあげて問題行動の捉え方(具体的行動、ターゲット行動)や具体的対応、保護者との連携について学んだ。充実した内容で3時間を超える研修となった。参加者からは、理論的な話だけでなく具体的な方法やエピソードがあることでイメージしやすかった、家族と支援者の間にある越えられない溝を認識しつつ手を携えていく支援の必要性を実感した、相談支援者の連携の重要性を再認識した、講師とフロアとのやり取りの時間が欲しかった等の感想が出ていた。

3. 発達臨床研究ネットワーク 第2回研修会報告

- ・日時: 2012年12月9日(日) 11:00~12:30
- ・会場: 東京しごとセンター 講堂
- ・テーマ: 「異文化家族内において祖語に苦しむ中3女子の相談事例」
～家族関係単純図式投影法的人模型導入による理解～
- ・講師: 川瀬洋子 江戸川女子中・高スクールカウンセラー
- ・司会: 東敦子氏
- ・参加者数: 48名
- ・研修要旨: 十分な時間が確保出来ない学校相談室で生徒を取り巻く家族関係をより明確に理解するために人模型を導入してカウンセリングを進め事例の報告であった。配置された模型を見ながら生徒との話を進め、その結果、生徒の抱えている辛い気持ちがあぶり出されていく、また自ら修正を施す(模型の向きを変える、模型を倒す他)などの感情を表出することから生徒自身の自己開示の促進、及び自己理解に繋がって行った経緯が説明された。在日外国人の両親の不和がストレスを高めた女子に対する発達支援のケースである。支援内容はもちろん、発達臨床研究の進め方についてなど、フロアからの活発な議論が行われた。

4. 特別支援教育ネットワーク 第2回研修会報告

- ・日時: 2013年1月14日(月) 14:00~17:00
- ・会場: 東京都立王子第二特別支援学校
- ・講師: 宇賀神るり子氏 (調布市子ども発達センター)
- ・司会: 菅原真弓氏・正田康恵氏・大隈幸子氏
- ・参加者数: 18名
- ・研修要旨: 今回の事例は、WISC-Ⅲの他にK-ABCのデータも提供されたので、日常観察や家庭状況とも合わせて多角的に検討することができた。講師の先生からは、ワーキングメモリは高いのに日々の学習が積み上げられないのはなぜか等、掘り下げた解釈とともに、「得意な理科実験の手順」をヒントにする等の具体的な支援のアドバイスが提案された。研修の中身については、参加者から以下のようなアンケートが寄せられた。
 - 具体例を元に、多角的な視点から読み解くことができ参考になった。
 - 支援を始める具体的なポイントを示していただき実践に役立てることができる。
 - このようなスタイルの研修会をまた希望する。 等々時間の都合上、具体的な教育支援計画まで作成する事はできなかったが、今後も個別の指導計画だけでなく教育支援計画まで広げた内容を検討していけるとよい。
- * 当日は、悪天候のため参加人数が少なく、また、緊急時の連絡先がはっきりしなかったこと等、反省すべき点がいくつか残った。悪天候にともなう実施の是非に関する判断手順や緊急時の受講者の連絡先について明確にしておく必要があった。

5. 第2回文京区巡回相談研修会

- ・日時: 2013年2月1日(金) 18:30~20:00
- ・会場: 文京区役所 5階会議室D
- ・テーマ: 1. 巡回相談・外部専門家事業に対する東京支部の取り組みについて現状と、平成25年度の予定について
2. 文京区小中学校各校の取り組みについて報告し、巡回相談の実施の参考とする
- ・司会: 松村裕美氏
- ・参加者数: 6名
- ・研修要旨: 東京支部では、巡回相談・外部専門家養成研修を行い、平成25年度以降、巡回相談員・特別支援学校外部専門家になる人材の育成をしている。研修にあたっては、講義だけでなく、巡回相談への同行も行った。実際の現場に立会い、具体的に巡回相談の仕事をイメージできるようにした。各校の取り組みでは、3時間の巡回相談の中で、どのようなタイプの児童生徒が、何人対象となり、どのような観点で学校にアドバイスをしているかを相互に報告した

6. 子育て・発達支援ネットワーク 第2回研修会報告

- ・日時： 2013年2月2日(土) 13:00~16:00
- ・会場： 筑波大学・東京キャンパス文京校舎 5階504講義室
- ・テーマ：「地域ごとの子育て・発達支援マップ作りの試み」
- ・司会： 坪井寿子氏・小堀あゆみ氏・河合真紀子氏・堀容子氏
- ・参加者数： 27名
- ・研修要旨： まず、世話人による地域連携の紹介後に、何人かの参加者より自身の地域についての簡単な紹介がなされた。その後、東部、中央部、西部の各地域ごとのグループに分かれて、情報交換会、マップ作りに向けてなどを話し合った。最後に行なわれた各グループから発表では、各地域に関する報告とともに、今後の情報交換・情報共有についての提案がなされた。特に、実際に各臨床発達心理士に出会って感じ取ることのできる「ナマの情報」をいかに活用できるかについても取り上げられ、またその一方で個人情報等の現実的に配慮すべき事柄についての意見も出された。このように、具体的な情報提供は特に見られなかったが、子育て発達支援 NW の方向性、臨床発達心理士の役割について考えさせられるような研修会になったと言える。

IV. 事務局より

1. 心理士の国家資格化にむけての情報

・心理研修センターの設立

2013年1月13日(日)「日本心理研修センター(仮)」第1回設立準備委員会が開催されました。各心理資格・職能団体(臨床心理士、学校心理士、臨床発達心理士、特別支援教育士)関係者、心理学・医学学会関係者17名が準備委員となっており、予定している一般財団法人の定款が審議され了承されました。また理事長として、村瀬嘉代子(一般社団法人 日本臨床心理士会会長)を選出しました。

この心理研修センターは、様々な分野の心理専門職が連携し、互いの専門性を向上させるための研修や、よりよい資格を創っていくための資格・試験制度を検討するためのものです。今後、多くの方々・方面に募金を募るなどし、2013年春の登記・設立を予定しています。皆様のご理解・ご協力をお願い致します。(幹事長:長崎勤)

・国会への請願書の提出

国家資格「心理師(仮称)」の国会への法案提出について、国民の声を国会に届けるために、心理諸資格団体、医学学会、心理学会等が連携し請願署名の活動をすることとなりました。東京支部の会員の皆様にもご協力いただき、200枚(約2000人)の署名を集めることができました。ありがとうございます。心理職の国家資格の早期実現のために今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

2. 養成研修会および外部専門家の推薦について

東京都教育委員会や文京区教育委員会からの依頼を受けて、特別支援学校や小中高等学校などの外部専門家・巡回相談員として東京支部会員を推薦しています。これまでに養成研修会に参加した会員の中から、希望職種や居住地域などのマッチングを行い、要請のあった学校のニーズに合う技能と経験を有していると思われる会員の推薦を行いました。

その他、学校からの募集があった場合は、内容を会員専用の掲示板に随時案内していきます。さらに、派遣相談員養成研修および現任者フォローアップ研修なども企画・充実していきたいと思っておりますので、どうぞご協力のほどよろしくお願いいたします。

<メールアドレス登録とホームページ活用について> ★ 重要 ★

・本部の会員名簿にメールアドレスが記載されている方には、支部よりメールでご連絡をお送りしております。

アドレスの記載のない方や、アドレスを変更された方、パソコンが受信を拒否する場合等には、郵送でのご連絡は行っておりません。

HPを随時見ていただくか、本部の名簿情報についての「変更届」(そのページのアドレス入れる)による手続きをお願い致します。

東京支部ホームページ <http://www.jocdp-tokyo.net>

本部ホームページ 変更届 <http://www.jocdp.jp/shikai/member/index.html>

・ホームページ上の掲示板(みんなの広場)のパスワードも、事務局よりメールでお知らせいたします。

<連絡先>

東京支部事務局 東 敦子(のぞみ発達クリニック) e-mail: jimu@jocdp-tokyo.net



東京支部ニューズレター2013年度第1号(通巻17号) 2013.4 発行
編集:堀 容子・小堀 あゆみ(NL担当)